



発行：医療法人社団 松和会 介護老人保健施設
「まきよう苑」(年4回発行、創刊2016年4月1日)
〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目6-1237
TEL: (0463) 92-8101 ✉ kikyoen@showakai.or.jp

「梅雨明け間近、いよいよ夏本番」



7月に入り、暑さも徐々に本格的になってまいりました。
今年、夏祭りなどのイベントも各地で開催が予定され、多くの人々で賑わいそうです。

夏の花と言えば、代表的なものとして、アジサイ、ひまわり、朝顔などがあります。
まきよう苑の庭でも、夏になるとひまわり、ききょう、マリーゴールドなどが咲き誇り、苑庭を華やかに彩り、ご利用者の目を楽しませてくれます。
みなさんも夏の花を見つけにお出かけしてみたいでしょうか。

(広報委員長 越地 正樹)



在宅復帰と訪問指導

まきよう苑入所リハビリでは、慣れ親しんだ家庭での生活を継続できるように、「在宅復帰・在宅支援」に向けたリハビリに取り組んでいます。

その結果、現在では、当苑は、「在宅強化型」の介護老人保健施設に認められています。

在宅復帰

2017年以降、当苑から退所されたご利用者のうち、ご自宅へ帰ることができたご利用者の数と、すべての退所数に占める割合を調べました(図1参照)。経過の中での変化はありませんが、毎年50〜70名の方が退所しており、そのなかで、30%以上の方が、慣れ親しんだ家庭へ帰ることができました。

訪問指導

当苑では、よりスムーズに家庭へ帰るための支援として、在宅に帰る希望のあるご利用者に対し、積極的に訪問指導を行っています(図2参照)。

入所時に、一度自宅を訪問し、想定される家庭での生活で、リハビリで解決すべき課題の共有を行います。

当苑から家庭へ帰る方には、退所する1ヶ月前に、再度、訪問指導を行います。入所時に共有した課題が解決されているか、家族や担当ケアマネジャーと情報を共有し、必要に応じて介助指導を実施します。

2020年から在宅退所者に対し、入所時および退所時の訪問指導を実施した数を調べました(図3参照)。在宅退所者の中では、入所時訪問指導は、毎年10件以上、退所時訪問指導は20件以上実施することができています。

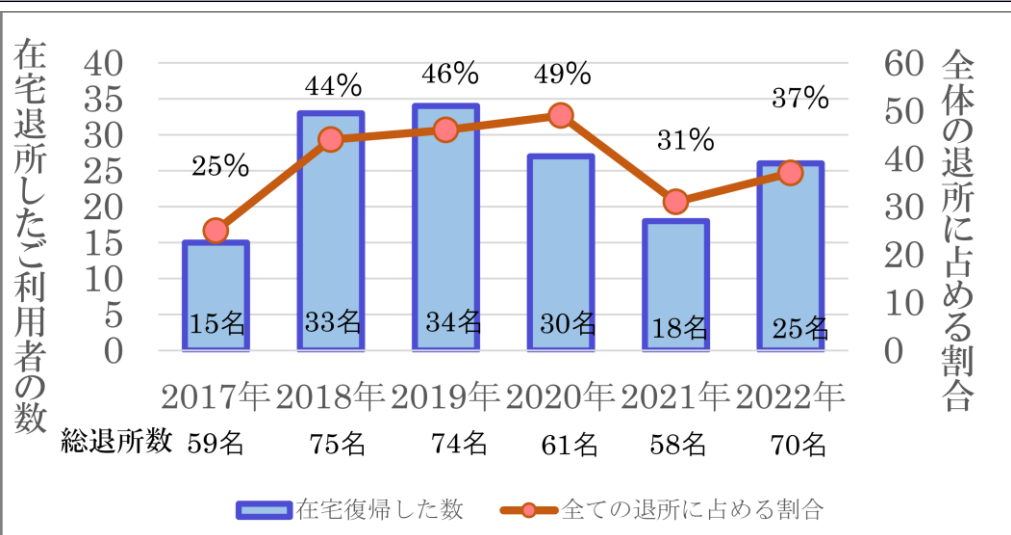


図1：自宅へ復帰したご利用者の数と、全体の退所に占める割合の推移

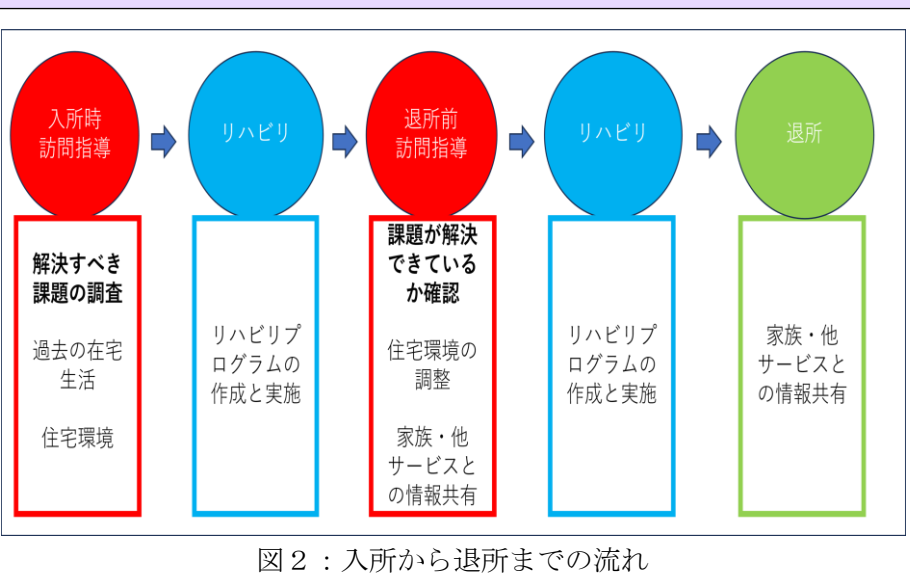


図2：入所から退所までの流れ

今後の展望

コロナ禍においても、上記の訪問指導などを行い、在宅へ帰るための支援を継続してきました。しかし、感染症拡大予防のため、外出・外泊訓練を継続することができませんでした。

2023年からは、外出・外泊訓練の実施が可能となりました。外出・外泊訓練では、ご利用者本人の生活の様子や、介護状況を、ご家族と共有しながら、実際に生活する場で動作の確認を行います。

外出・外泊訓練の実施後には、ご利用者やご家族が心配になった場面があったか共有し、安心して自宅へ帰ることができるよう、介助指導や家屋内の環境調整(手すりや歩行器などの導入)、介護保険サービスの必要性の検討などを行い、自宅へ帰る準備を行います。

まきよう苑では、ご利用者やご家族の双方が安心して、ご自宅に帰り生活を継続できるように支援を継続しています。
今後も、ご利用者や地域住民が安心して生活を継続できる支援を行ってまいります。

(入所事業部門 リハビリテーション部
友利 隆太)

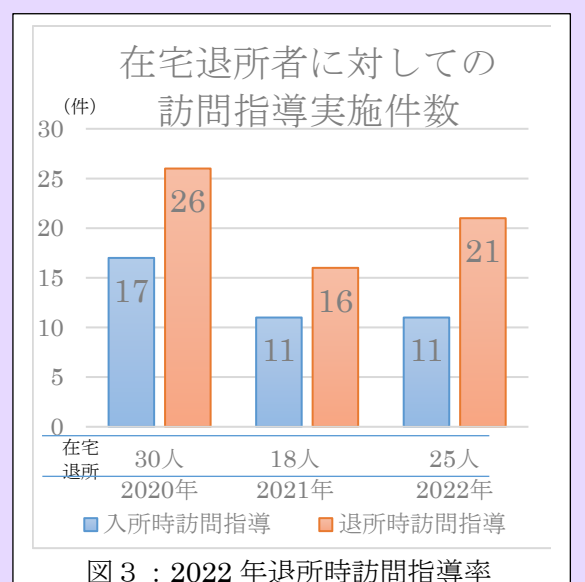


図3：2022年退所時訪問指導率

通所レク活動を再開しました！

通所リハビリテーションでは、新型コロナウイルス感染症防止のため自粛させていたっていた、カラオケや麻雀、将棋などの活動を再開しました。

カラオケマイクは一曲ごとに消毒、牌や駒は対局ごとに消毒を行うなど、引き続き感染対策を講じ、安心して楽しんでいただけるよう対応しています。



新型コロナウイルス感染症の対応と現状

ききよう苑では6月から、入所利用者・職員を対象に、第6回目の新型コロナウイルスワクチン予防接種を開始しています。

5月8日、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行しましたが、まだまだ予断を許さない状況ではあります。ききよう苑では、引き続き、基本的な感染対策を実施しながら、感染対策の緩和を段階的に進めてまいります。

ご利用者・ご家族にはご不便とご迷惑をおかけしておりますが、今後も感染対策について変更等がございましたら、ご報告させていただきます。

引き続き、ご理解とご協力のほどよろしくお願いたします。

ご不明な点がございましたら、お気軽にききよう苑までご連絡ください。

(感染症委員長 加藤 絢子)



久しぶりに行われたカラオケでは、ご利用者それぞれ思い入れのある曲を熱唱され、皆様に拍手や声援をおくりたいへん盛り上がり 있었습니다。

「久しぶりに大きな声で歌えて、いい気分転換になった」とのご意見も聞かれ、大変ご好評いただいております。

(通所事業部門 介護部 田中 健司)

ききよう苑バンド再始動!!

ご利用者やご家族、地域の方にも楽しんでもらいたいと、楽器など全く触れたことのない素人の職員が集まって始めたききよう苑バンドも、今年で結成5年目を迎えました。

近年のバンド活動としては、コロナ禍における感染症対策のため、自粛せざるを得ない状況が続いていましたが、今年5月から再始動しました。

新たに終結したメンバーは、今年10月に行われる、ききよう苑創立記念祭での演奏披露を目指し、一生懸命練習に取り組んでいます。

どんな演奏か乞う

ご期待ください!!

(入所事業部門 介護部 岡部 大祐)



5月3日、昨年度から開催しているランチミュージックを小澤施設長(ギター)、川口訪問事業部門長(二胡)、宮崎通所事業部門長(カホン)、による演奏のもと行いました。

曲目は、季節を感じていただける「こいのぼり」や「茶摘み」などを演奏しました。

最近では、ご利用者も共に歌を口ずさみながら参加いただくことで、アフターランチの時間を楽しんでいただいております。

今後も、ご利用者には気軽に音楽に親しんでいただけるよう定期的に開催してまいります。音楽に興味のある方は、ききよう苑通所リハビリにぜひお越しください。

(通所事業部門長 宮崎 亮)

5月5日、端午の節句のお弁当を提供しました。献立は、たけのこ御飯、鶏肉のもろみ焼き、炊き合わせ、すまし汁、和菓子でした。特にたけのこ御飯はとて好評でした。

いつもと違う雰囲気での食事であったため、ご利用者同士での会話も弾み、楽しい食事時間となりました。食欲が落ちていたご利用者も、この日はいつも以上に食事を食べることでできていました。

(入所事業部門 栄養部 木我 みな美)

端午の節句 特別弁当



♪ 通所ランチミュージック開催中 ♪



今年もツバメがやってきました

ききよう苑では、4月下旬〜6月上旬にかけて、たくさんツバメが建物の軒下に巣を作りやっています。

ツバメは暖かくなる春頃に、東南アジアなどから餌の豊富な日本にやってきます。親鳥が子どもたちに餌を与え、子育てしている姿は何とも微笑ましく、ご利用者や職員の心を癒してくれます。

リハビリのウォーキングコースに巣があり、「ツバメの巣が完成したよ!」、「このものために頑張ってエサを運んでいるよ!」と嬉しそうに、ツバメを観察しているご利用者もいます。

わずか2ヶ月足らずの間ですが、子育てが終わる頃立っていくツバメたちを見ると、うれしくもあり寂しくもあり、何だか感慨深い気持ちになります。

(事務部 向笠 将)



〈編集後記〉

令和5年4月1日から、自転車のヘルメットが努力義務となりました。街中で、自転車で乗っている人を見ると、少しずつヘルメットを装着している人が増えてきたかなあと感じています。

昔と違って、今は自転車も交通ルールが厳しく、車道を走らないといけない、車道の信号にしたがって走るなど、うっかりすると間違えた認識で乗っているなんてこともあり得たりします。

ヘルメット装着の努力義務を機に、今一度、安全運転第一、自転車の交通ルールを確認しようかなと考える今日この頃です。

(居宅介護支援事業所管理者 泉 友之)